



デメテル Demeter

群馬県立自然史博物館だより No.66

Newsletter of the Gunma Museum of Natural History 2016. 夏

デメテルはギリシャ神話に登場する大地の女神で、群馬県立自然史博物館のシンボルマークになっています。

開館20周年記念展
超肉食恐竜
Hypercarnivorous dinosaur

T.rex

EPISODE I
ティラノサウルスの時代とからだ
7.16(Sat) - 9.22(Thu)

EPISODE II
ティラノサウルスへの進化
10.1(Sat) - 11.27(Sun)

全身骨格所蔵：天草市立御所浦白亜紀資料館（熊本県）

企画展イベント（～9月） ※10月以降分は次号に掲載します。

ワークショップ

「恐竜の生体復元図に挑戦しよう！」

- 日時：7月18日（月・祝）10:00～11:30
- 講師：徳川広和（恐竜造形作家・（株）ACTOW）
- 対象：小学生以上、小学3年生以下は保護者と一緒に参加
- 定員：40名 ☎ ■参加費：50円（保険料）
- 会場：博物館 実験室

ワークショップ

「恐竜の全身復元模型に挑戦しよう！」

- 日時：7月18日（月・祝）13:00～16:00
- 講師：徳川広和（恐竜造形作家・（株）ACTOW）
- 対象：小学4年生以上
- 定員：20名 ☎ ■参加費：1550円（材料費・保険料）
- 会場：博物館 実験室

ワークショップ

「いろいろな爬虫類を観察しよう！」

- 日時：8月14日（日）13:30～15:30
- 講師：富田京一（肉食爬虫類研究所代表）
- 対象：小学生以上、小学3年生以下は保護者と一緒に参加
- 定員：30名 ☎ ■参加費：50円（保険料）
- 会場：博物館 実験室

ワークショップ

「化石のコハクストラップをつくろう！」

- 日時：9月22日（木・祝）13:30～15:30
- 講師：自然史博物館職員
- 対象：小学生以上、小学3年生以下は保護者と一緒に参加
- 定員：30名 ☎ ■参加費：1670円（材料費・保険料）
- 会場：博物館 実験室

☎…電話での予約申込みが必要です（1ヶ月前の午前9時30分から）

展示详解

ティランノサウルスの亜成体 “ジェーン” に注目！

開館から20年、自然史博物館に *T.rex* の全身骨格が登場します！11月27日まで開催する開館20周年記念展「超肉食恐竜 *T.rex*」のうち、前半にあたる EPISODE I (9/22 まで) では、白亜紀末期に *T.rex* と共にララミディアにいた生物たちや、*T.rex* のからだの特ちょうを中心に紹介します。今回展示する *T.rex* 全身骨格2体のうち、ジェーンと呼ばれるこの全身骨格は *T.rex* の亜成体（子ども）だと考えられています。もう一体の成体の全身骨格とは、プロポーションなどがかなりちがうことから、*T.rex* の子どもとおとなでは生活様式がちがうのではないとも言われています。他にもティランノサウルス類のテラトフォネウスなど多くの標本や模型を展示したり、「おやっ？」と驚く仕掛けも準備中です。また10月以降の EPISODE II の内容や、ワークショップ、記念講演会（講師は小林

快次博士！）については、次号のデメテルや館HP、公式フェイスブック等でご案内します。そちらもお見逃しなく。
(学芸係 高栗 祐司)



“ジェーン”の全身骨格

自然のコラム 『群馬県希少野生動植物保護条例について』

群馬県では採取や開発、里山・草地の管理放棄などにより529種の動物と633種の植物が絶滅したか絶滅のおそれのある状態にあります（群馬県レッドデータブック2012年改訂版による）。群馬県ではその中でも特に希少となった生物を保護するための条例（群馬県希少野生動植物の種の保護に関する条例：以下希少種条例と略す）を2013年に制定しました。希少種条例に基づき、知事は群馬県内で特に保護が必要な生物を特定県内希少野生動植物種に指定します。それにより2015年8月に動物3種と植物8種が特定県内希少野生動植物種に指定されました。特定県内希少種は今後他の絶滅危惧種の状況や現在の指定種の保全状況に応じて順次追加・改訂を行う予定です。

希少種条例の特定県内希少野生動植物種に指定されると、採取・捕獲（種子・卵含む）はもちろん、採取・捕獲由来の個体の飼育・栽培やそれらの譲り渡し・販売も禁止され、違反者には罰金や懲役刑などの罰則も課せられます。なお、希少種保護条例指定種以外に群馬県内の植物ではアツモリソウ、カッコソウ、ウラジロヒカゲツツジにも国の法律（絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律）によって同様な制限がかけられています。これらの法令の目的は希少な動植物の保護・増殖を図ることで、過剰な採取・捕獲や野生個体の減少を助長する取引の制限はそのための具体的な取り組みの一つです。

(学芸係 大森 威宏)

表 群馬県特定希少野生動植物種一覧

動物

オオモノサシトンボ	昆虫・モノサシトンボ科	平野の低湿地に生息。開発・工事により減少。
ゲンゴロウ	昆虫・ゲンゴロウ科	ため池や周辺の開発により減少。
オオタニシ	貝類・タニシ科	水質が安定した湖沼に依存する。

植物

タチスミレ	スミレ科	平野の低湿地に分布。開発・工事により減少。
コウシンソウ	タヌキモ科	栃木・群馬の固有種。特殊な立地に依存する。
アイズヒメアザミ	キク科	分布地点が少ない上にシカの食害が顕著。
ナツエビネ	ラン科	もともと群馬には少ない。盗掘により絶滅寸前。
ムカゴソウ	ラン科	草地性の種。残存個体はわずか。
ニョホウチドリ	ラン科	亜高山帯のラン。盗掘により残存産地わずか。
ノヤマトンボ	ラン科	里山に依存するラン。群馬には少ない。
ムカデラン	ラン科	群馬は分布の北限。盗掘により絶滅寸前。

当館では群馬県立自然史博物館研究報告という学術雑誌を毎年1回発行しています。ここでは様々な自然史や博物館に関連した研究論文・報告・資料などが掲載されています。今年の3月には第20号が発行され当館職員による論文はもちろん外部からも投稿を頂き、21本の論文が掲載されています（掲載されたすべての論文は博物館のホームページで全文を読むことができます）。自然史博物館では様々な自然史にかかわる調査・研究を行っています。このような調査について報告をすることで、より多くの方々に調査の結果が利用できるようになります。このような活動も自然史博物館としての重要な役割の一つです。ここでは第20号に掲載された論文の一つを紹介します。

自然史博物館に新しい収蔵標本が加わりました。*Ninjadelpphis ujiharai* という新属新種のタイプ標本（正基準標本）です（図1）。その属名は忍者で有名な三重県伊賀市から化石が見つかったことに由来します。これまで知られていない種類の生物を報告する際に、基準となる標本がタイプ標本です。いまのところこの種類の化石は他では見つかっておらず、文字通り「世界で唯一」の標本です。



図1 *Ninjadelpphis ujiharai* の頭蓋 (GMNH-PV-2570)

Ninjadelpphis はアロデルフィス科という絶滅してしまったイルカの仲間（ハクジラ類）です。ガンジスカワイルカ上科という大きなグループに分類されます。ガンジス川などに現在も生息するガンジスカワイルカと同じグループです。ガンジスカワイルカは淡水に生息していますが、*Ninjadelpphis* は海に生息していました。

Ninjadelpphis を一言で表すなら「あり得ないような奇妙なイルカ」といえます。その特徴として第一に挙げることが出来るのが、非常に長いくちばしです。彼らのくちばしは頭の前に鋭くとがったように伸びています。一見するとメカジキのようなイメージですが、メカジキは上あごだけしか長く伸びていないですが、*Ninjadelpphis* は上あごも下あごも同じように長く伸びています。

そしてさらに奇妙なのがくびの骨（頸椎）です（図2）。*Ninjadelpphis* の首の骨は、これまで知られている他のどのグループのクジラ類よりも前後に長いのです。皆さんはイルカの首といわれて一体どのあたりか直ぐにわかるでしょうか？現在のイルカやクジラでは一般的な哺乳類のように外形ではっきりと区別できる首をもっていない。もちろんイルカ・クジラの仲間も他の哺

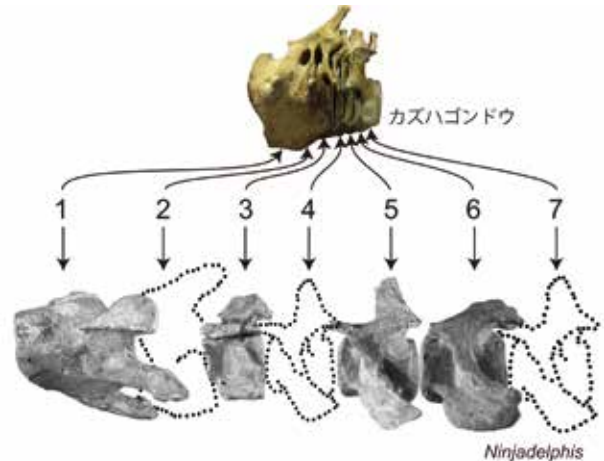


図2 一般的なクジラ類（カズハゴンドウ）と *Ninjadelpphis* の首の骨（頸椎）を側面から見た図 1～7の数字は前からの頸椎の番号。 *Ninjadelpphis* では第2, 4, 7頸椎が保存されていないため点線で示してある。

乳類のように7つの首の骨（頸椎）をもっていますが、進化の過程で彼らの首の骨は非常に短く（前後に薄く）なりました。種類によっては7つある頸椎がお互いに癒合してひとつの骨のまとまりになっているものもあります。このような首の骨の短縮は水中を泳ぐ上で有効です。なぜなら水の中を速く泳ぐ際には、短い首でしっかりと頭を保持していた方が泳ぎやすいためです。*Ninjadelpphis* のような長い首では高速で遊泳することは苦手だったでしょう。彼らはゆっくり泳ぐ一方で、素早く頭を振り回し、長いくちばしを使って、パッとエサ生物をつかまえていたのではないかと考えられます（図3）。ちなみにこのような特徴は *Ninjadelpphis* が含まれるアロデルフィス科とグループのクジラ類に共通して見られます。

この化石標本は現在では全く見る事ができなくなってしまった、太古の昔に絶滅したグループが、確かに存在していたことを示してくれます。そして、それだけに留まらず、私たち人類がそれまで全く知らなかった、未知の生物である *Ninjadelpphis* がどのように生活していたのか、その姿をおぼろげながら垣間見せてくれます。
(学芸係 木村 敏之)



図3 アロデルフィス類の生体復原図 (Painting by Mary Butler, Courtesy of Natural History Museum of Los Angeles County)

下仁田ジオパーク

下仁田ジオパークウェブサイト：<http://www.shimonita-geopark.jp/>
 アクセス：上信越自動車道下仁田インターまたは上信電鉄下仁田駅。
 ジオサイトの場所は、下仁田ジオパークウェブサイトでご確認ください。

皆さん、ジオパークとは何か知っていますか？「ジオ」は地球という意味で、「パーク」というのは公園という意味です。地球の自然を丸ごと楽しんでしまおうというのがジオパークの考え方です。その中には、地形が織りなす絶景ポイント、珍しい岩石や鉱物、そこに生きている動物・植物、自然の恵みを受けて人がつくった文化、自然と慣れ親しむレジャーポイントなども含まれます。

日本国内に39カ所しかジオパークはありませんが、なんとそのうちのひとつが群馬県の下仁田町にある下仁田ジオパークです。下仁田ジオパークの特徴は、古生代から現在までの色々な地層と、そこに棲む色々な生きものが見られることです。また、下仁田の自然はネギやこんにゃくを育むのに絶好な土地柄でもあり、人々が自然の恵みをたくさん受けてきました。群馬県は特に自然豊かな県ですが、その中で最も優れた自然を有する場所のひとつが下仁田ジオパークと言っても言い過ぎではないと思います。

今年度の「自然散歩」では、下仁田ジオパークの中で私が特に気に入っている場所をご紹介しますと思いますので、ご期待ください！
 (学芸係 菅原 久誠)



図2 夏もひんやり時田不動の滝

図1 豊かな自然を育む下仁田ジオパークの根なし山全景
 (下仁田町観光協会提供)



博物館ボランティア



当館は、「人々が集い、学び、みんなに開かれた博物館」を目指し運営をしています。そこで、博物館と人を結ぶ架け橋として、大切な役割をしているのが、博物館ボランティアになります。現在、79名のボランティアが、解説・資料整理・サタデー・発送の4つの区分にわかれて活動しています。解説ボランティアは、主に常設展の解説をしています。資料整理ボランティアは、いくつかの分野に分かれ担当学芸員と一緒に調査・研究を行っています。サタデーボランティアは、毎週土曜日に行われる科学教室の運営・補助をしています。発送ボランティアは、年3回開催する企画展のポスターやチラシの袋詰め等の発送作業をしています。これら多くのボランティア活動により、博物館とみなさんがつながっているのです。ボランティア募集については、8月1日～9月30日にホームページ等でお知らせします。(教育普及係 小須田 健志)



H27年度 ボランティア全体会後(中庭にて)

利用案内

- 開館時間 午前9:30～午後5:00(入館は午後4:30まで)
- 休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)8月は全日開館
- 観覧料

	一般	高校・大学生
常設展のみ開催時	510円 (団体割引20名以上410円)	300円 (団体割引20名以上240円)
開館20周年記念展開催時	820円 (団体割引20名以上650円)	410円 (団体割引20名以上320円)

※中学生以下、身体障害者手帳・療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料となります。
 ※有料者20名以上は団体料金で2割引となります。

群馬県立自然史博物館だより Demeter No.66

編集・発行 群馬県立自然史博物館
 〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
 Tel.0274-60-1200 Fax.0274-60-1250
 ホームページ
<http://www.gmnh.pref.gunma.jp/>



Demeterは、地球環境保全のため植物油インクを使用しています。